

うらわしい子育て日記 (上)

村田 修子

「子どもの出生率が年々下がってきている」と報道されているのをよく耳にするし、現実子どもにふれる仕事をしている者には「今年は〇〇園が入園希望者が少ないので閉鎖になった」とか「先生の減員のために、そこに勤めていた卒業生がやめなくてはならず再就職の相談にきた」等々、そのために派生してきた問題がきこえてくる。

どうしてこうなってきたのかを考えてみると、社会状況の変わりようと共に、子どもについての考え方が非常に違ってきていることを感じる。身近に親と接してみる

と、ずっと以前にかかわっていた親と、いまふれ合っている親の感触はことごとくに異なることが多い。特に自分中心のことを運ぶことが一般的な傾向なので、子どものことについて話し合うときなども、基本的なことが全然くい違ってしまふことが多いので、そのへんを一致させる話し合いから始めないと話し合いにも効果が無い、という現状である。

○子どもにかかわることによってこうむる様々な犠牲は
さげたい

○子どもを育てることの不安、自信のなさ

○めんどうなことはしたくない

これ等は現在の親が共通して持っている点であるし、子ども減少の原因につながっているのではないかと思われる。

今ここに、現代の親には考えられないのではないかと思われる「真心による子育て」の記録があるのでご紹介することにします。失われかけている心の問題を考えるきっかけになればよいと思うものである。

平成四年五月、同じ会社に勤める者同士の若いカップルが誕生した。花嫁は私の姪の長女篤ちゃん。私もそのお祝の席に招かれ祝福を送った。例の如く二人の今迄のことどもが披露され、セレモニーも終わり近くなったとき、石川さんという方から篤ちゃんに特別なプレゼントがあった。

綺麗に包まれた八冊のノートで、篤ちゃんの成長の記録である。

篤ちゃんの両親は当時は共に学校勤務、子どもが生ま

れてご多分にもれず母親は仕事のことを考えた。現在のように保育所等の設備が充分ではない時代だったので、仕事を続けるべく子どもを預かってくれる処を探した。相談を掛けられた私も方々に当たってみたが仲々適当な条件のところはみつからなかった。

暫くたって様子を聞いてみると、勤務先でその話をしたところ、その或る方が「近所の方がみてくれるかも知れない」とのことなのでわらをもつかむ、という気持ちで伺ってみると「自分のところにも二人男の子がいるが小学生になって手が掛からなくなったし、女の子を育ててみたいと思っていた」とのことなので、早速に交流が始まった、ということであった。

私はそれを聞いてとても驚いた。自分に何の関係も無い、しかも三か月足らずの手の掛かる子どもを預かって育てる経験をする、ということ。これは大変なことである。子どもは機嫌のよいときばかりではない。健康状態もよいときばかりではない。そのために大人が犠牲を是らわなければならないことがたくさんある。またこまご

ましく世話をしなければ子どもの心には通じない。

既にその思いをしてご自分の二人の子どもを育てている最中。いくら大きくなったとか、性別が違う、といっても、自分の子どもだけで充分と思う人が殆どだと思ふ。しかもその上、毎日々々の様子等を書いておき、迎えに行ったときに渡して下さり、朝つれて行くとき迄に読んで母親の方からも希望とか報告を書いて置いてくる、とのことであつた。

このことを姪から聞いて、子どもに関係のある仕事をしている私としては、「いつのときかそれを見せてね」と約束しておいたその記録なのである。

「このことを取り上げていいですか」と石川さんに伺つたとき、「結構ですが、全くの素人ですから書いてあることは恥ずかしいようなことばかりです。でも日中のことをおうちの方が知らない、やはりまずいので知らせたい、と思つただけです」と謙遜しておっしゃつたことにまたまた驚く、という状態であつた。

毎日々々書いてあるので、どういうようにしたら石川

さんがなさつたその真心が伝えられるか、と考へてみたが全部というわけにはいかない、先ずは成長の記録としてオーソドックスな型で発育・発達の変わりようや、書かれていることの中で子育てに大変有意義だと思ふことを拾ひ出し、また感銘を受けたことなどについて述べていきたいと思ふ。

昭和四十一年五月二十三日（七十八日目） 雨

七時四十分

篤ちゃん来宅、本日より我が家に仲間入り。『ようこそいらっしゃいませ』大事にお預かりして良い子にお育てしましょう。

風邪気味との連絡に、細心の注意で様子を見る。時々、「くすん」と泣き声を出し乍らも大してむずからない。鼻水も出ない。これなら大丈夫。

九時四十分 お母さんの処の電話故障、お父さんの処へかける。

十時 授乳（ミルク七さじ 一五〇g）

十一時 ぐっすりねむる。

十二時十分 排便あり。ころり二つ。

母親より電話あり、御心配の様子。少しずつぐすり始める。

乳首はなるべくしゃぶらないようにさせる。唇の形の悪くなるのを案じて。抱っこしてあやす、よく笑う。「クーン」とおしゃべり。少しねむる。

二時 授乳、ミルク九さじ、一八〇cc、一〇cc残す。

雨止まず。お風呂は風邪気味なので本日は中止。顔を真赤にして排便一つ。しっかり抱っこして安心させて排便させる。

三時

ぐっすりねむる。お風呂に入れないので、熱いむしたオルでお尻をよくふく。

*

夕刻は道がこむのでお迎えの頃それにぶつからなければよいと思う。御両親様も何かと大変なことと思いますががんばって下さい。私も受入れ態勢をとりがんびりしますから。

五月二十四日 快晴

七時三十分 到着

八時 目をさまし、おもちゃを見て大人しくおふとんの中で遊ぶ。排便。便の具合よい。

九時 天気が良いためか、寝ているのをいやがる。アーン、

アーンと甘え泣き。少し抱いて外を眺める。

九時三十分 授乳の準備を始め、十時に授乳。ミルク九さじ、

一八〇cc、終わり頃はき出し二〇cc残す。

十一時 ぐっすりねむる。おむつ洗濯。

一時十五分

入浴、太っているので首のつけ根がくびれている。赤ちゃんらしい結構なことで綺麗に洗う。気持ちよく手足を伸ばしくるくるあたりを見回す。上から下まで着替え、サッパリする。

二時 授乳、全量平らげる。こんな時は嬉しい。

三時

日誌をつけながら、わずかの時間で大分甘えるようになってきたと思う。あやすとよく笑い、またよく話す。

ベッドが届く、赤ちゃんは「知らぬが仏」で無心にねむっているが、私は父母の愛を感じる。よくねている間に入浴後の洗濯をしておもう。

*

車でのお迎えですが、冷たい雨の中、風邪をひかなければよい、と心配でした。お父様のお姿にホッと致しました。夜、お母様が心配そうに赤ちゃんを抱く姿が眼にちらつきました。梅雨期に風邪をひかせないように注意致しましょう。

六月一日 雨（お泊まりをする）

赤ちゃんが来る様になってから、日中の雨は本当に困る。夜充分降って昼間は晴天が何よりだけれど……。

七時三十分

ねむって到着、昨夜の連絡を受ける。ミルクも吐いてしまったそうなの。私は次男でいやという程経験し、情けなくて何回も涙をこぼした。ところが今は冷静に状態を判断するところが出来る。泣き泣き経験した総ての事柄は若い故にあせりがあり、つまずき転び、起き上がりして年をとってゆく。学問とは別の人生経験。

八時 目を覚ましにつこり笑って早速お話し。

九時 ねむる。

十時 授乳、むねり乍ら飲む。昨夜吐いたので無理をさせず残させる。(五〇㉙)

十時三十五分 ねむる。

十一時 抱っこで窓から雨を見る。

十二時〜一時四十分

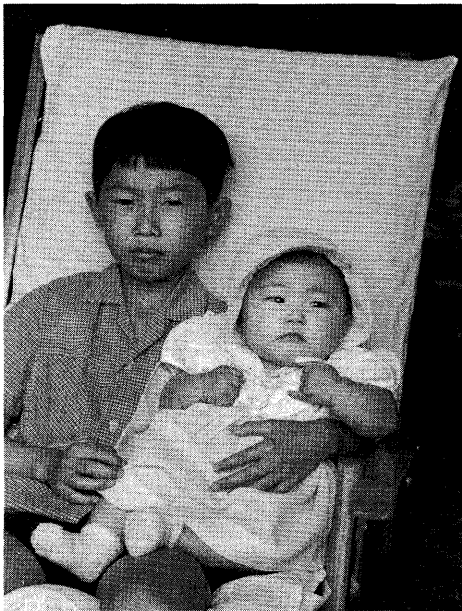
ねむる。目覚めてから、早く帰ったお兄ちゃんと遊ぶ。

二時 授乳（お兄ちゃんとの問答）

「ママ、人をだましちやいけない、と言ったね」

「そうよ」

「おっぱい首は赤ん坊をだますものだろう」



◀ お兄ちゃんと一緒

「そういうことになるわね。でも人をだますのとは少しばかり違うのよ」

思わず返事に困る。抱っこしているとよく笑う。見るとお兄ちゃんかうしろで一生懸命ウインクしている。思わず吹き出ししてしまう。ウインクするとよく笑う篤ちゃんだそうなの。

三時～五時 ねむったり抱っこしたり、ベッドで一人話しながら……。

六時 授乳

六時四十分 入浴

朝から雨で少々寒い感じ。今日はお泊まりなので主人と入浴する。手に脱脂綿を握らせて入る。大きなアクビをして気持ちよさそう。主人は入浴させるベテラン。用心深くとても上手。二人の子どもと私と三人で見学。篤ちゃんはクスンとも言わない。

七時三十分 就寝

あたたかそうにぐっすりねむった。(七時間)

午前二時三十分

目を覚ます。授乳、全量飲む。おむつ取り替え。長い時間ねむった為か音をさせてよく飲んだ。ゲップを出してすぐねむる。おとなしい。

六月六日 (満三か月、体重六キロ増)

「今日はおくるかしら、どうかしら……」と思いつつ、早目に起きていつこられても良いように家事を切りもる。

七時三十分 到着、珍らしく目を開けている。

八時三十分 ねむる。起きて排便。

九時三十分 授乳

今迄の経験では一〇〇cc飲むことは少ないので四時間はおなかもたず、三時間半位からミルクを欲しがり始める。本日よりミルクの水分を一〇cc少なくする。

十時

明日保健所に連れて行くので、私の髪が余りぼさぼさでは篤ちゃんが気の毒なのでセットに行く。ピンカールのみ(三十分で帰宅)。美容院での篤ちゃんは大変おとなしく、又抱かれて寝てしまう。

十一時 排便、ねむる。

一時三十分 授乳

二時十五分 入浴、女の子らしくお顔を石けんで洗わせる。

三時～五時

抱っこで遊んだりベッドに入ったり(ふらふら歩いてもらい

たいらしい。

五時三十分 授乳

*

修学旅行引率から帰ったお迎えのお父さんへ

三日間の篤ちゃんはお兄ちゃん二人に見守られて大事に大事に過ごすことが出来ましたので御安心下さいませ。土曜日のお迎えの日は生憎の雨でもう一日お引止めしようかしらと考えましたが、お母様のお気持ちも大切と存じ雨の中をお帰ししてしまいました。お風呂がすっかり好きになりました。裸にするとう手足を嬉しそうに動かします。

六月十七日

七時四十五分 目をあけて到着

パパ、ママを見送る。分かるかどうか分からないが、一日の出足をよくするために、これからも目を開いているときはお見送りをしたい。



この日もいつもの様に授乳、排便……と日記は八冊になる程続く。最初の方の五日程をあげてみたが、これを見ただけでも全体に流れている気持ちは「してやる……」「してやった……」というのではなく、全く心から幼い者を一人の人として大切にはぐくむ、という純粋さで貫かれている。だから読んでいるとはのぼのとしたものを感じるのだろうと思う。

その書かれていることを改めてよく見ると、「……私は心理学を勉強したこともないし、全くの素人ですから……」と言われていたけれども、どうしてどうしてどこをみても理にかなってすばらしいのである。例えば

○ この日記を書くことになったきっかけに、「自分の子どもが日中どうしているかを知らないのは問題」と思った、とあるが、それは基本的に一番大切なことなので、それを考えて下さったことは素晴らしいことである。現在の親の多くは「子どもをお願いする処があつてよかつた」とか単に「お預かりしている」という便宜上のところで終わってしまうように思われる。

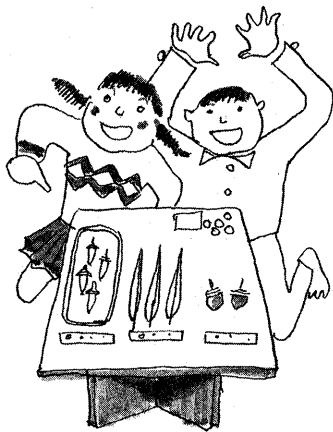
また「我が家に仲間入りした」というのも単にお客様ではなく、家の者という最も近い関係として受け入れたことが感じられて温かい雰囲気と思われる。

○ 健康を保つ為に大切な排便のことが常に書かれているので重視していることが分かるし、その為に安定した気持ちでさせる方法を工夫したり、そのあとお湯で拭いてさっぱりさせる。めんどうがらない心使いは幼い心の中に残るのはたしかである。そしてこれが大切なのである。

○ 朝、相当早い時間に活動を始める。これは親にとっては毎日大変なことであるが、子どもは習慣になれば大丈夫なのである。そこで感心したことは、送ってきたパパやママと別れるとき、「分からないことは知っているが、見送るようにする」ということである。赤ちゃんは生まれてくる前からおなかの中で夫婦の会話を聞いているといわれる。周りの大人が納得できるものではないが感覚的に体得して、それが自分のものになっていくのだということを感じていらっしゃる。

ることが素晴らしい。

○ ご自分のお子さん達に他の人のことも真剣に考えることの必要なことを身を以て教えていらっしゃるよう思う。幼い子が身近にいることにより、その年齢なりに個々が確立していく。大変上手な教育法であると



もいえる。また子どもの言ったことを取り上げ「教えられた」と素直に認めていることが子どもの進歩につながっていく。

○ その他、乳首のおしゃぶりをなるべくさせないことや、泣き声で甘えていることが分かったり、抱いて雨を見るなどこせこせしないでゆったりと子どもと生活している。これがどんなにいいことか、そうして頂いたことはとても幸せなことである。

最後におお小母として一番有難いことは、六月六日のように「今日ほくるかしら」と楽しみに待っていてくれる。その気持ちは、知らず知らずのうちに篤ちゃんにも、母親にも感じられることである。

また若くて経験のない母親に対して、その本当の母親、またおばあさんが言うようなこまごました注意を日誌の各所につけ加えてある。分かっているが、それを仲々実行できていないことを衝いている。これを素直に受け入れて子どもに対していけば間違いない、という感じである。

日誌は毎日毎日サツと書かれているようだが、傍らに赤ちゃんをおいて、もう一方では母親として、また一家の主婦としてその間をさいての記録は、さぞ大変だったろうと思う。

ちなみに私も四十年程前、自分の子どもが生まれたとき意を決して一日一日の変化を書いて矢張り結婚したときに渡した。自分の子どものことであっても本当に努力を要した。

娘はそれをもたらしたときは一通りのお礼を言っただけだったが、自分の子どもが中学生になった頃「あれ大事にしているのよ」と私に言ってくれた。もらったそのときよりも、母親としての経験をつみ重ね、喜びも苦労も味わって一応落ち着いてきたとき、初めて自分の育ちを改めて考えてみよう、という気持ちが出てくるのではないかと思われた。

それ等も少しあげてみようと思ったが、家に手を加えるのに荷物を動かして身近にないのでできないが、生まれ一週間位してからまつ毛が生えてきたのをみて驚

いた。"と書いたのは覚えてはいるが、どうも私の日誌には日中のいろいろな事柄が抜けている。矢張り朝晩しかゆっくり抱っこしなかったからだだったと思う。それに自分の子どものは忙しさに負けて流されてしまい易かったからだとも思う。

先日家の中を片づけをしていたとき、孫が使ったお皿が出てきた。

一枚のお皿

白くて縁が少し上がっている中皿、涼しげな水色で絵が書いてある、おすわりしてる熊、可愛らしい花、丸い輪の煙を吐いた おもちゃの汽車、小さなお客様がのっている

見ていると、不器用にスプーンを動かして小さい口に運んでいた頃がすぐ思い出せる。

いろいろ思い出して感傷にひたっている私のそばで、

見上げるように大きくなった孫いわく、

"なんじゃこりゃ一体?"と、やや照れくさそうに

言ったことばに、おばあさんたる私はダーッ。

でもしあわせ。ずっと以前のその時にすぐもどれるから。

身の回りに子どもがいて孫がいて……そういう環境の中で過ごせる人生は何にもかえがたいものであるし、子どもは本当にすばらしい存在である。決してうるさいだけのものではない。

これを書いている途中、或る新聞の記事に「いま子育てに関する本がよく読まれるようになりブームになってきている」と何冊かの本が紹介されていた。その現象が実際に子どもを育てることにつながっていくことに期待を持つものである。

(洗足学園短期大学)